

自然を歩く 10

【珊瑚礁と魚毒】

沖縄県の南西諸島には隆起珊瑚礁の小さな島々がたくさんある。観光で有名な竹富島の近くに子牛生産で有名な黒島がある。この島で長い間、自然と人の関係について調査してきた。島の周りはピーと呼ばれる珊瑚礁が発達していて、ピーの内側はラグーンであるが、島の人はイノウと呼んでいる。ピーには干潮なら歩いて渡れるところがない。ピーには干潮なら歩いて渡れるところがない。ピーには干潮なら歩いて渡れるところがない。くつかでき、お婆ちゃんたちはピーに魚を捕りに行っていた。島の畑の片隅におぐるイズベシという草を大量にとって白に入れて杵でつき、その青い汁をもつていく。ピーの中のタイドプールをクムルというけど、小さなクムルにこの青い汁を入れて待つ。しばらくすると小さな小魚が痺れて浮いてくる。お婆ちゃんは魚を集めるだけで、今晚のおかずがとれる。イズベシは和名ではキツネノヒماغオといい、この植物を現在は禁止だけれども魚毒として使ってきた。イズベシのイズは魚、ベシは酔わすという意味である。お婆ちゃんは今昔はよく夏になるとクムルでこうして魚を捕った。自然に関する巧みな知恵であり、こうしたものを知ると楽しくなる。